

産科医療補償制度 第102回原因分析委員会 議事要旨

日時：2023年3月22日（水） 16時00分～17時00分

場所：公益財団法人日本医療機能評価機構 会議室

出席者（委員）：石川浩史、茨聡、上塘正人、川田綾子、楠田聡、佐藤昌司、
下屋浩一郎、鈴木俊治、鈴木利廣、関沢明彦、高田昌代、
豊田郁子、前田津紀夫、馬目裕子、吉田幸洋（敬称略）

議事概要：

1) 原因分析委員会における報告書の確認・承認状況等について

○2023年2月末時点で累計3,523件の原因分析報告書が承認されたことが報告された。また、コロナ禍の影響もあり審査結果通知から報告書送付までの期間が長くなっていることから2022年度より実施している報告書作成期間を概ね1年に短縮する取組みの状況等が報告された。

○同一分娩機関での複数事案目の原因分析の結果、同じ診療行為等において医学的に厳しい評価が繰り返された場合に一層の改善を要請する「別紙（要望書）」対応について、2023年2月末時点の累計実施件数132件、改善要望項目としては「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」が最も多いこと等が報告された。

2) 原因分析報告書の公表・開示および原因分析のデータ等を活用した研究等の状況について

○原因分析報告書要約版は、2020年8月以降、同意取得を行うことなく全件一律に公表を実施していること、および、以前同意取得を行った時期に不同意の意思表示を受け未公表としていた要約版に関しては、前回の報告から変更は無く、取組み継続中の数事例を除き公表済みであることが報告された。

○原因分析報告書全文版（マスキング版）については、開示方法を変更した2015年11月以降2023年2月末までに13件の利用申請で延べ3,339事例の報告書を開示したこと等が報告された。

○産科制度データに関し、医学系研究においてより利用しやすくするために、新たな開示項目として、原因分析報告書の「脳性麻痺発症の原因」のデータ追加を検討しており、現在、事務局にてデータ抽出項目やデータ抽出方法の整理を進めていることが報告された。

3) 部会審議における確認事項等

○原因分析報告書の医学的評価において、読み手に正しく理解いただくために記載方法等を検討した方がよいと提起された事項があり、検討することとなった。

4) 個別事案における原因分析の対応方針について

○個別の事情のある事案について、通常どおり原因分析を行うことが報告された。

以上